

## 2024\_0119「半月と木星（写真）」日々の理科 3452号

お茶の水女子大学 サイエンス&エデュケーション研究所 田中 千尋

月も木星も太陽系天体で、黄道（太陽の通り道）からあまり離れることはありません。地球から見るとそれぞれの天体は、それぞれ決まった法則で動いて見えます。月と木星はごく稀に重なって見えることがあります。「木星食」とか「掩蔽（えんぺい）」と呼ばれる天文現象の一つです。しかしそれは非常に稀な現象で、国内で2030年までには一回も見られません。

しかし、木星と月は、1ヶ月に1回「少し」近づきます。木星は外惑星（地球よりも外側の軌道の惑星）なので、日々の天球上の動きはわずかです。しかし地球を公転している月は、天球上を1日に10度以上も西に動きます。その間に木星に近づくのです。もちろん実際に二つの天体の実距離が縮まるわけではなく、単に地球から見た視角度（離角）が小さくなるだけです。

経験上、月と木星の離角が10度以下になると「意外と近いな」と感じ、5度以下だと「かなり接近しているな」と感じます。更に1度（月の直径の2倍）になると「大接近」と呼ばれるようになります。今回の半月と木星は5度以上離れていたもので、「仲良く並んでるな」或いは「月の近くの明るい星は何だろう」と思う程度だったようです。

(2024年1月中旬／文京区小石川)

